広報
ものづくり
第4号

平成19年度の取り組みについて

鈴鹿市ものづくり動く支援室
室長　角谷　元彦

本年5月14日の人事異動で、新しく鈴鹿市ものづくり動く支援室の室長となりました角谷でございます。

鈴鹿市ものづくり動く支援室の活動が2年目を迎え、重要な時期に室長という大役を仰せつかりその責任の重さに身の締まる思いでございます。微力ではございますが、皆様とご一緒により良い支援室にしてまいりますので、よろしくお願い申しあげます。

本年度の取り組みにつきまして一言ご説明申し上げます。本事業運営の組織について昨年度は、産業政策課産業政策グループの一事業としての位置付けでありましたが、本年の機構改変により「ものづくり動く支援室」という一つの室に昇格し、より一層の充実を図りました。これにより、より現場に近いところで、企業のニーズに対応することができると考えております。

また、事務所につきましては、既に本年4月より鈴鹿商工会議所から別館第3(鈴鹿市役所立体駐車場南)2階に移転し、業務をおこなっています。新事務所は、サロン機能や相談コーナーを設けるなど、企業に気軽にお立ち寄りいただける環境作りに努めています。今後は、事務所機能を最大限発揮し、各種情報の発信拠点を目指してまいります。

昨年度は、41の企業よりアドバイザー派遣の申込をいただき活動をおこなってまいりました。支援終了時にお聞かせいただく企業の満足度調査において、概ね高い評価をいただきましたが、より企業の皆様に活用いただけるよう、昨年の活動を振り返り、本年、制度の見直しをおこないました。

昨年までは、企業診断後のアドバイザー派遣活動については、半日を基本として6回おこなってまいりましたが、企業の受け入れ体制の実態を勘案し、本年度は、2時間の活動を12回までとし、より実態に即した活動となるよう改変をおこないました。これからも企業の声を出来る限り反映し、より活用していただける取り組みをおこなってまいります。

本年度は、こうした制度の改変や組織改革、事務所の移転等を通じて、本事業を強固な連携により推進いただいている鈴鹿商工会議所は勿論のこと、高等教育機関や金融機関、他の行政機関等との関係をより緊密なものとさせていただくことにより、企業の幅広いご要望に応えていきたいと考えています。

2年目を迎えます鈴鹿市ものづくり動く支援室は、こうした取り組みを通して、より充実したものとなるよう努めてまいります。そして、鈴鹿市がより元気になるよう、これからも地道に息の長い活動となるよう取り組んでまいりますので、よろしくお願い申し上げます。

発行
鈴鹿市産業振興部
産業政策課
ものづくり動く支援室
鈴鹿市神戸一丁目18番18号
事務所
別館第3二階(市役所立体駐車場南)
TEL059-382-7011
FAX059-384-0868
E-mail:
sangyoseisaku@city.suzuka.lg.jp

「ものづくり」で元気な鈴鹿市に

第三銀行　鈴鹿支店
支店長　渋谷　幸

鈴鹿市の産業活性化戦略を実現するための施策のひとつとして、「鈴鹿市ものづくり動く支援室」が平成18年4月より活動を開始して、早一年が過ぎました。鈴鹿市の中小製造業の経営上及び技術上の課題解決を目的に支援活動を積極的に展開し、既に支援申請実績は41社にのぼるとお聞きしております。サポート対象先として接触をされた企業の約半数が申請に結びついているとのことであり、支援室の運営に携わるスタッフ皆様方の意欲的な取組みに敬意を表すところであります。同時に市内の製造業者皆様の支援室のサポート活動に対する期待と関心の強さを示す結果であると確信するものであります。

さて、鈴鹿市は自動車関連を中心とした、まさしく「ものづくり」の街であります。今般、景気回復が伝えられる中、鈴鹿市の更なる活性化のために中小製造業の担う役割は、当然のことながら非常に大きいものとなっております。一方、技術面での改良、人材の育成、業務の効率化等、製造業の発展のためにクリアーすべき課題は多く、それらをサポートする支援室の活動の重要性は極めて高いものであります。

また、私たち地域の金融機関といたしましても、資金面でのお手伝いや情報、サービスの提供を積極的に行い、支援室と歩調を合わせながら地域産業の発展に少しでもお役に立ちたいと考えております。

今後とも、支援室の着実で息の長い活動とその成果により、「ものづくりの街、鈴鹿」がより一層力強く発展することを心から期待しております。

企業紹介　株式会社 奥岡技研

代表取締役　奥岡　卓美

「社内安全管理体制の確立」

現在の自動車産業の進歩には驚くべきものがあります。あらゆる分野の最先端技術を駆使活用しそれはまさに人類科学技術の結晶とも言えるべきものです。その一端を担う弊社は試作開発部品の金型、治具、検具、製品の一貫加工を中心に多種、少量部品の生産、また、第二工場では二輪のマフラープロテクターの多量生産を行っています。日ごと進歩する技術とノウハウを常に吸収し、研究しつづけ時代に即した生産システムの確立を目指して来ました。おかげさまでその確かな品質と生産力にはユーザーの方々から高い評価を得ていると自負しております。しかし、そんな中にあって安全、環境の変化は著しく全社をあげて見直す必要性が出て来ました。従来も『安全は生産に優先する!!』と言う事から3S・5S(整理、整頓、清掃、清潔、躾)を基本に個々の指導、安全対策を行って来ましたが、従業員の増加、第二工場増資等で根本的に安全衛生について組織的な構築が必要と考えましたが、自社では専門的な人材もいない事から鈴鹿市ものづくり動く支援室を思い出し、支援をお願い致しました。そして、一月中旬より支援を受け全社的な安全衛生の考え方、行動計画から実施に入りました。初めは戸惑いもありましたが、アドバイザーの適切な指導の下、規定、組織作り、評価基準、標準類の見直し、安全パトロール、全社的な意識付け等月二回のアドバイス三日安全衛生委員会のキックオフが出来ました。以後、安全衛生委員会を軸に安全活動を進めていますと共に横の展開として第二工場の安全衛生委員会の発足(キックオフ)を四月十一日に行いました。これを基に安全で働きやすい環境造りのためにさらに活発な活動が出来る様努力してまいります。

鈴鹿市ものづくり動く支援室の皆様ありがとうございました。今後共ご指導、ご支援宜しくお願い致します。

アドバイザー　今井　澄

昨年12月25日、(株)奥岡技研よりの、安全管理対応に付いてのアドバイス要請を受け、今回の支援内容に付いて打ち合わせを行った。

奥岡社長から、当社は業務上プレス機等、各種の機器を使用しており、創業当初よりプレス機はより危険度の低い油圧プレス機を採用する等、安全に関しては、それなりに配慮してきたが、事業の進展に伴い、従業員数も100名を超える規模と成り、組織的な管理が必要な時期に来ている。

付いては、本社工場の安全衛生管理の仕組みを構築したいのだが、具体的な対応や方法をアドバイスして欲しい。

又、仕組みの構築に当たっては、「ルール一辺倒の硬直した仕組みを作るのではなく、現場の実態に則して、無理なく段階的に進められる様なものにして欲しい」との要望があり。その後、具体的な支援内容について安全管理者と打ち合わせを行う中で、安全管理者より今回、社長より安全管理者に指名され、安全管理を推進する様にとの指示を受けたが、「具体的に何を、如何進めればよいのか?良く解らない」との悩みが出されれた。

【目標・狙い】

そこで、今回の支援の狙いを:「組織的安全衛生管理の実施方法の考え方の基礎を習得する事」とし、目標を:「組織的安全衛生管理の仕組みの基礎構築」(納期:07年3月末)とした。

【方針・活動/内容・結果】

又、仕組み構築に当たっては「現場の実態を踏まえ、実状に則した管理体制の構築を目指す」事を方針とし、支援企業側とアドバイザーの役割分担を、

アドバイザー→「実施必要項目の対応の考え方の説明と具体例の提示」

支援企業担当者→「具体的施策の検討・策定:アドバイザーより提示する例示を基に、支援企業の実態に則したものを、工夫し作成する」と明確化。

今回活動での具体的対応事項として

①管理体制の構築:「安全衛生管理組織」の整備

②役割/責任の明確化:「安全衛生管理規定」の制定、

③活動計画の策定:「07年度安全衛生管理計画」の策定、

④管理基準の見直し/整備:「5S評価基準」「主要機器の設備点検基準」「主要作業の安全作業標準」の整備

を実施することとし、07年1月~3月までの支援活動計画書」を策定、企業側の担当者(本社工場長と安全管理者の2名)と、実施項目/日程のすり合わせを行い、活動を開始した。

活動は、月に2回、アドバイザーが企業を訪問し、対応要事項の説明とその具体例を提示。企業側担当者は、次回支援日までに、例示に基づき、会社としての具体策を策定すると言う形態で実施しましたが、企業担当者の対応は非常に熱心で、毎回、積極的に取り組まれ、提示した課題にも、毎回、着実に対応いただいた結果、2月22日に本社工場の管理者・リーダー全員が出席して安全衛生管理活動のキックオフを実施、3月6日には第一回安全衛生委員会を開催する等、予定より早期に当初の活動の目標を達成する事ができた。

【今後の期待・課題】

企業側に提示した今回の「アドバイス活動計画書」にも明示したが、今回構築した仕組みは、あくまでも安全衛生管理の「Step1:基礎」であって、安全衛生管理の実効を本当に上げるは、今後、この仕組みをベースとして管理活動を実施していく中で、P・D・C・Aのサイクルを着実に廻し、継続的に仕組みを改善していく事が重要であり、企業担当者には、是非、地道で、着実に活動を継続し、より組織実態に則した、実効の伴う仕組みの構築を目指して頂きたい。

【今回の支援活動で留意したこと】

今回の支援活動の企業側担当者が工場長と品管長と言う要職にある人で、非常に多忙な方であるので、企業での打ち合わせ/協議は出来るだけ短時間に済ませられる様、わかりやすい資料/事例を作成する事に心がけた。

その為に、解りやすくシンプルな説明資料や組織の実態に則した具体例の作成等、事前準備に時間を掛けた。

【支援活動を終えて・感想】

今回が、初めてのアドバイザー活動であり、どの様に対応すべきか、若干の戸惑いが有ったが、企業側担当者とのコミュニケーションを図る中で、担当者が困っている事を具体的に把握出来てからは、比較的スムースに活動を進める事ができた。支援に当たっては、如何にして担当者の抱えている問題を共有できるか? が重要と改めて認識した。

コラム　三現主義

団塊世代の定年退職が始まった。この3年間で約700万人が対象に成るらしい。

自分の身辺を見渡しても、企業OBと成った仲間達も、地域企業、県外企業、或いは海外企業と、自分の持つ知識、ノウハウをそれらの企業に提供しながら、自分の生活に変化と潤いを期待しつつ、支援活動で企業を、元気付けている仲間が多くなってきている。

多くの中小企業が抱えている、多種多様な問題とその解決に、私もこの1年間無我夢中で取り組んできたが、まだまだお客様である、中小企業の方々が満足して頂いたと言う領域までは、到底届いていないと反省している。

支援する仲間たちが、もっと力を発揮しやすい仕組や施策はないか。当然の事で有る中小企業さんが満足できる他施策はないか等、今後も色々と模索をしながら、今鈴鹿市が取り組んでいる「工業団地の開発や企業誘致」等の産業発展施策と合わせ、「優秀なシニアの企業支援活動が活発な街づくり」の、更なるステップアップの実現を考える今日この頃である。

(徳澄)

新しい取組体制について

推進アドバイザー　桜本　昭

汗と涙の中に貴重なノウハウが・・・

支援活動を通して企業の現場に春の息吹、元気印の芽が体感できるようになってきた。

18年度の接触企業は約100社、内1／2近くの41社が支援申請に結びつき、既に支援が完了した企業も数を増し6割の26社を数えるに至りました。手探り状態でスタートした初年度でしたが現場サイドと事務局機能で活動を通して様々なノウハウを得る事が出来ました。これらを生かし基盤強化を図り前進をしたいと考えています。このようにアドバイザー皆さんのご苦労とご努力があって初年度の活動はほぼ満足の行く形で締めくくる事が出来ました。有り難うございました。

支援室の組織が戦略テーマとして認知される位置づけに格上げ

初年度はアドバイザーの皆さんに、いかに仕事支援に集中して頂けるか五里霧中で取り組んでまいりましたが、ここにきてようやく落ち着きを取り戻し、ものづくり動く支援室としての将来戦略や直近の重点施策等の優先順位も整理され本来の姿を取り戻してきたのです。

とりわけ皆さんの声の大きかった主なものは

①産業政策課のグループ機能として独立した室組織を構え責任ある室長を置き意思決定の迅速化を図る。

②動く支援室の名に相応しく巡回相談窓口機能を設ける。

支援活動の勢いを上げ、ものづくりの街、鈴鹿市を元気にしたいと意気込んでいます。

③活動に当たりアドバイザーと企業の現場をより密接にコンタクトできるよう従来の支援回数6回を12回に見直す。

期間は3ヶ月で集中的に取組み効果を上げて行こうと改定を図りました。

④会議所産業振興部指導課との連携強化を図る。

中小企業の窓口機能は商工会議所此処での生の声をスピーディに動く支援室に繋げお客様の満足度を高めようとするもので今後の連係プレーが期待されるところです。

この5月新たに室長を迎え合わせて事務所を市役所別館第3　2階に移したことで戦略テーマに相応しい活動内容になる様、更なる充実を図り企業の皆さんに喜んで頂けるよう共に頑張りたいと思います。

支援室の更なる飛躍に期待

鈴鹿商工会議所
中小企業振興部部長　北藪　久幸

2年目の門出、「ものづくり動く支援室の更なる飛躍を期待して」寄稿させていただきます。

鈴鹿商工会議所では、中小企業者―特に小規模事業者―の経営体質の強化を図るため、金融、税務を始め、様々な施策を講じております。特に金融面では、18年度「小規模事業資金」において、斡旋件数402件、斡旋金額33億8千万円の実績を残し、大きな成果を上げております。また、資金使途においても、従来の運転資金から、設備資金の需要が増えてきており、企業の積極的な姿勢がうかがえました。今後の展望に目を向けますと、小規模事業者は、「人材の育成」「作業効率アップ」「コストダウン」など、ソフト面での改善が、大企業に立ち向かうための急務であります。

そこで、自動車関連産業を中心に、電気機器、機械器具などの産業を支えてこられた、ものづくり動く支援室のアドバイザーに期待します。また、商工会議所会員に対しまして、ものづくり動く支援室の活用並びにPRを、一層図ってゆく所存であります。

製造業の街―すずか―を、ソフト面で支える機関として、「ものづくり動く支援室」が発展することを祈念申し上げます。

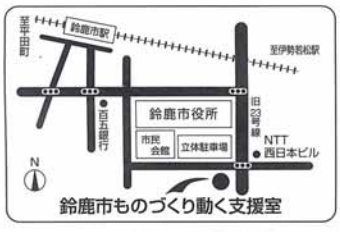
鈴鹿市ものづくり動く支援室事務所移転のお知らせ

鈴鹿市ものづくり動く支援室の事務所が、4月より鈴鹿商工会議所から別館第3（鈴鹿市役所立体駐車場南）2階に移転いたしました（略図左記）。

新事務所では、皆様に気軽にお立ち寄りいただけるようサロン機能や相談コーナーを設けるとともに、様々な情報を発信できるよう努めてまいります。

新事務所の電話番号等につきましては左記のとおりです。

（電　話）059―382―7011
（FAX）059―384―0868



原価管理

原価管理システムの構築

アドバイザー　太田清孝

原価管理という言葉は明瞭ですが、その意味は漠然としてなかなか理解でない言葉です。

そこでまず、ある製品の原価とは何かを考えてみます。それはその製品を作るのに必要な人、物、設備、エネルギー等の占有度です。それをお金という尺度で測る手続きを原価計算といいます。従って「1ケいくら」という把握は作り方の2次的な手続きで、作り方を改善していくことが原価管理であります。コストを1ケ10円下げてくれといってもどうしていいか分からないと思います。それよりも10工程のラインを9工程に短縮してくれといったほうが分かり易いと思います。それが原価管理なのです。今回私が支援させて頂いたのはまず、いくらで作られているのかを知ることから始めました。それを知るということは、例えば売価100円の製品が90円で作られていれば"安心"という担保を得、110円であれば"改善"という動機を得ます。それを知るという原価計算の仕組み作りに要件を3つ定めました。1つは現状あるデーターより読み取る事、2つ目は新たなデーター収集及び資料作成は絶対にしない、今ある資料の副産物としてアウトプットする事、3つ目に実績原価把握に要する所要時間はルーチングで月15分以内とする事。以上の要件で作りました。今後はこの仕組みを活用し、そこから工程改善の切り口に繋がっていくことを期待します。ここにそのフォーマットを掲載します。簡易エクセルで作りました。

このプログラムは「ものづくり支援室・事務局」にありますから興味のある方はお訪ねください。

アドバイザー紹介

櫻井　直彦（さくらい　なおひこ）
経歴　エンジン部品製造業
専門性　機械／生産技術業務

金属材料の「ものづくり」業を約三十五年経験し、その間日本経済発展に連動して様々な部品の機械加工ラインを立ち上げて来ました。そして、定年後約六年間、全国製造業に在職されている方々に『もの削り文化交流会』開催を呼びかけ、色々な企業を訪問させていただき、削るための文化と将来必要な夢技術を語り合っています。

文化とは削る為の必要な技術の集合体で企業のニーズと環境下において「方案・道具・物流」の分野に分けて技術選択し、融合させ、成長させることであり、企業の大小問わず違いのある企業文化が生まれ生き生きした企業になると信じております。

本年度鈴鹿市の動く支援室より要請を受け、ベンチャー企業を訪問し、色々な相談を受けて感じた事は人材と情報不足でした。この会社は特殊商品を上市して急拡大しており、今年末には品不足となるので、その対応の相談を受け、造り方の改革とその会社を紹介し喜んでいただけたと思います。小さく難削材で中量で季節商品で量産部品としては扱いにくい商品であるが、簡単に受けてくれる独特の製造文化を持っている地域がある。私としては鈴鹿市にもこんな独特な産業または企業が生まれることを願っています。ものづくり動く支援室の皆さんとともに鈴鹿市の活力造りに頑張りたいです。

ご案内

平成18年度活動報告・新拠点披露会について

産業政策課長　梅山　幹雄

鈴鹿市ものづくり動く支援室では、豊富な経験や知識、技術を有する企業OB人材をアドバイザーとして登録し、企業のご要望に応じて登録アドバイザーを規定回数無料で派遣しております。支援室は昨年4月にキックオフしてからちょうど1年が経過いたしました。そこで、支援室の活動内容を中小製造業の方々によりわかりやすくお伝えするために活動報告会を催します。報告会では、パネル等を通してのご報告や登録アドバイザーとの意見交換の席を設けております。ぜひ中小製造業の皆様にご出席いただきますようお願い申し上げます。

また、活動報告会に合わせまして、本年4月に当室の事務所が鈴鹿商工会議所から市役所南にある別館第3の2階に移転しましたことと、同じく5月14日に市役所の組織図に鈴鹿市ものづくり動く支援室が位置付けられたことを報告会の席で改めてご報告いたします。

新拠点では、市内中小製造業の情報発信基地となるべく市の支援施策のご紹介は元より、国や県の各種支援施策のパンフレットも取り揃え、相談コーナーや商談スペースもご用意しております。皆様のご活用をお持ちしております。

18年度活動報告・新拠点披露会

日時　平成19年5月29日（火）
午前10時～11時
場所　別館第3　2階
鈴鹿市ものづくり動く支援室内
（市役所立体駐車場南隣り）
駐車場
市役所駐車場をご利用ください

編集後記

新年度号（第四号）遅ればせながら、やっと発行できる運びとなりました。

これも原稿依頼を快く受けていただきました皆様のご協力あればこそ感謝いたします。

「広報ものづくり」も企業の皆様とアドバイザーの皆様の情報の共有化のお役に立てることを願っています。素人編集手づくりで苦戦をしながら頑張っているところです。どうか読後の感想・ご意見をお聞かせいただくと幸甚に存じます。（門平）